

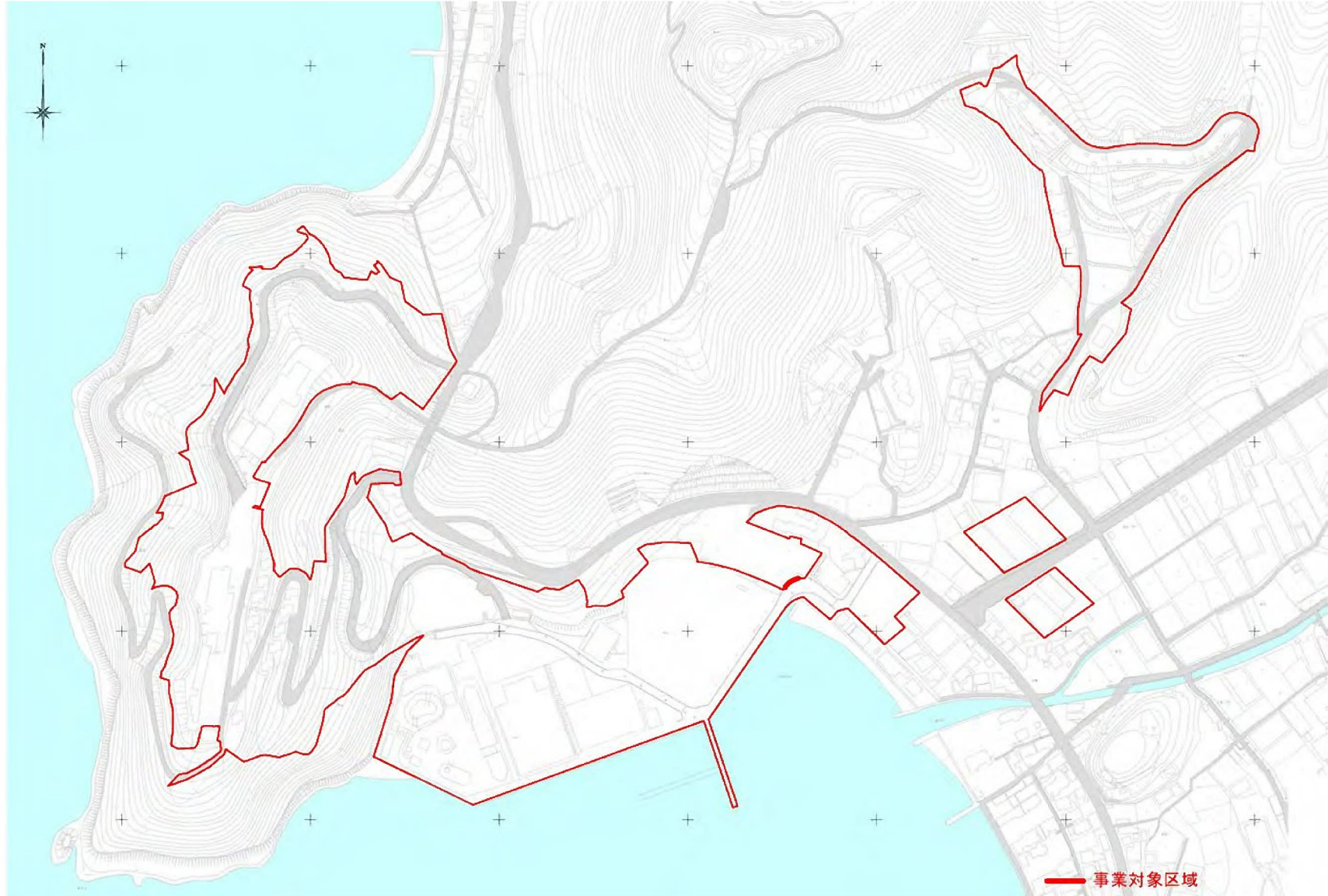


第3章

事業対象区域及び ゾーニングの設定

01. 事業対象区域

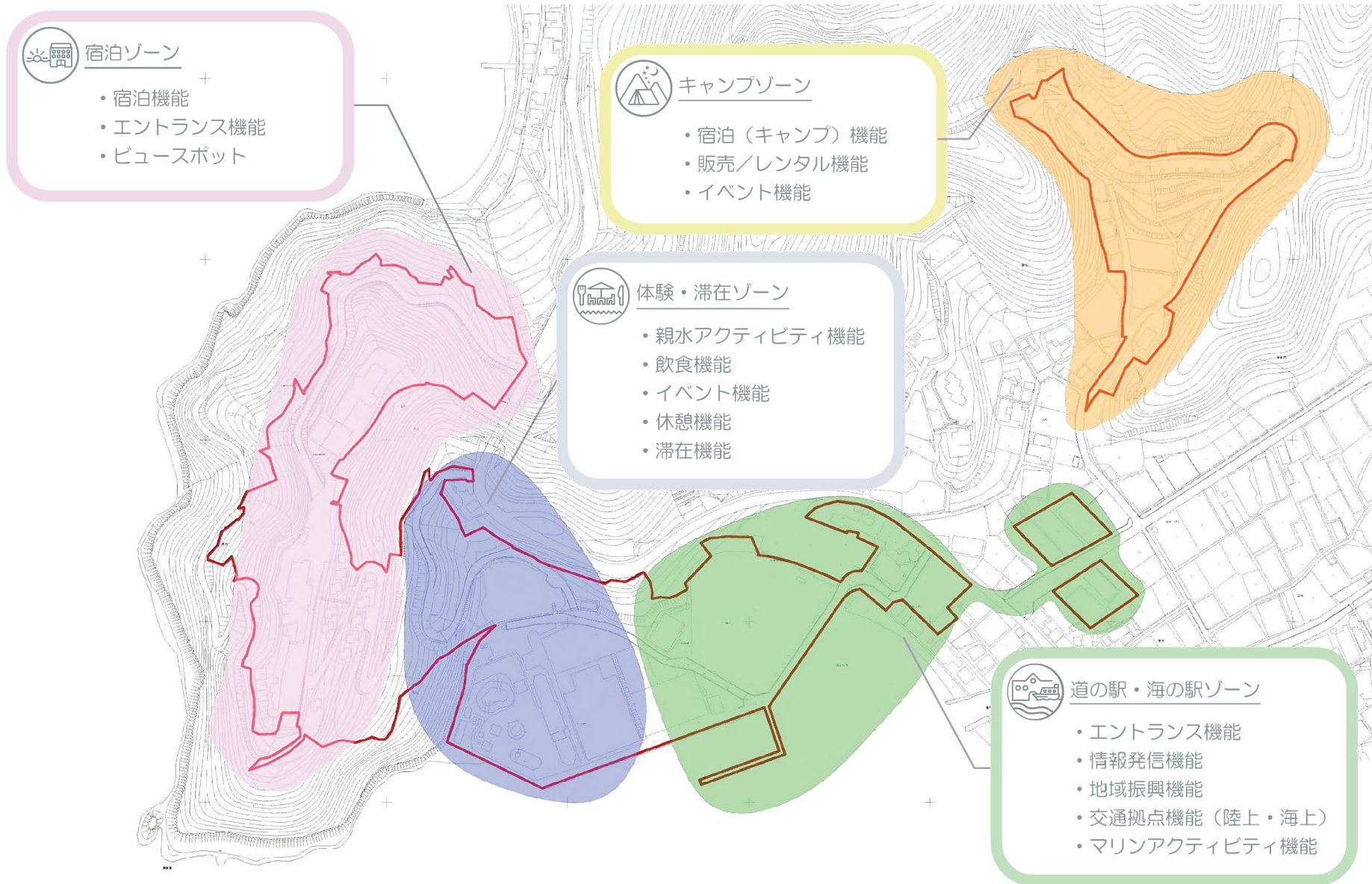
現状の管理対象区域や土地利用の状況を踏まえ、本計画の事業対象区域を設定した。



事業対象区域図

02. ゾーニング

本計画のコンセプト及び整備基本方針に基づき、現状の利用形態や地形、土地区分等を考慮して各ゾーンの範囲及び導入機能を決定した。



ゾーニングと主な導入機能の配置図



第4章

需要圏域・利用者層及び 利用者数の設定

01. 需要圏域の設定

■ 需要圏域の見直し

現状の来訪状況や周辺空港の就航便の傾向を踏まえ、小豆島ふるさと村の需要圏域を設定した。

現状

小豆島の県外観光客数は、大阪府・兵庫県などの関西圏からの来島が最も多く、次いで四国圏、中国圏が多い。

小豆島の宿泊入込数についてみると、大阪府・兵庫県などの関西圏からの利用に加え、関東圏からの観光客が占める割合が高い。

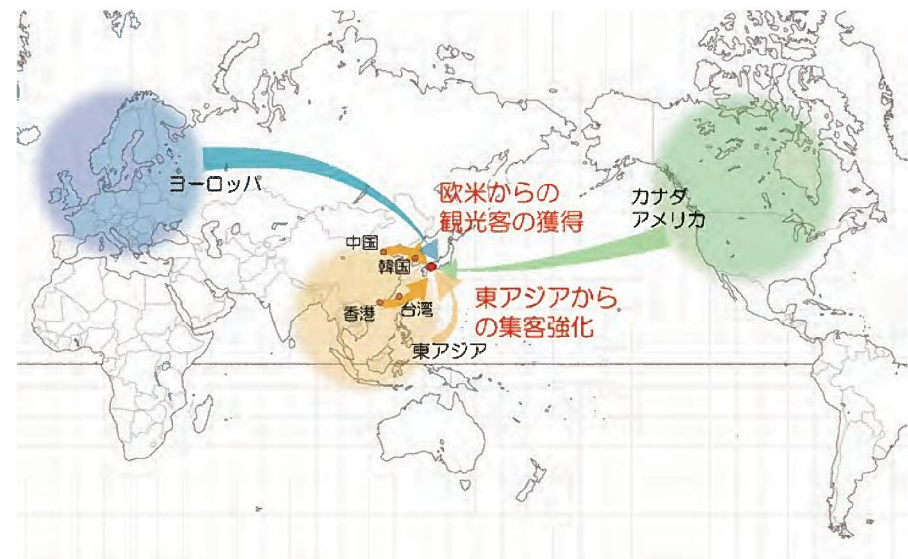
インバウンドについて、東アジアからの観光客は関西国際空港、高松空港、岡山空港を起点に、欧米からの観光客は関西国際空港を起点にした周遊がみられる。

方針

小豆島ふるさと村への来訪者として、香川県及び岡山県などの近隣地域からの日帰り観光客の受入増加を図り、個人旅行での利用や休日の余暇利用を促進する。

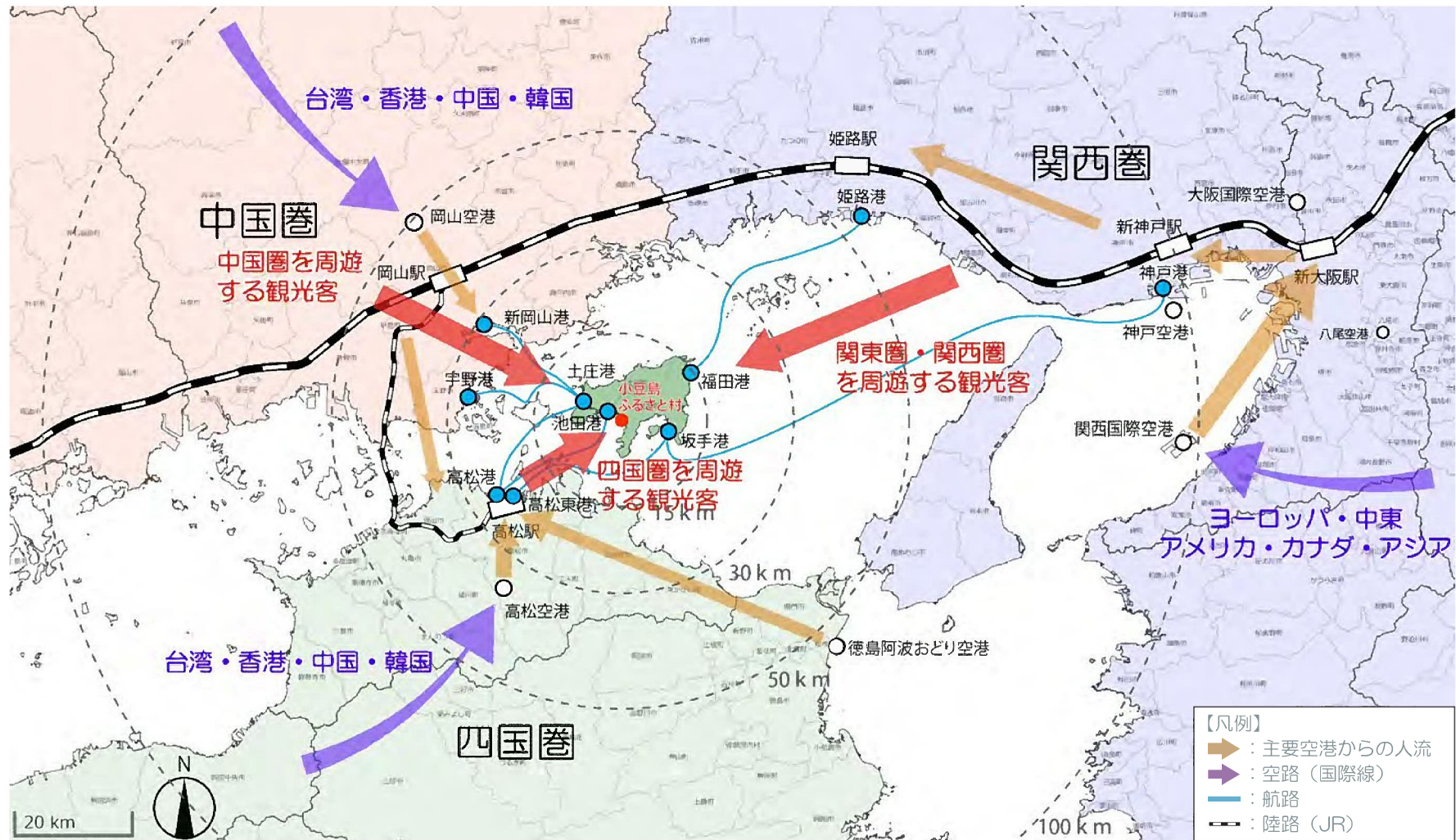
島全体の課題として、観光客の滞在時間の延長が課題であることから、宿泊利用率が高い関西圏・関東圏からの少人数グループの来訪を促進する。

インバウンドの観点では、現状の来島が多い台湾・香港・中国・韓国からの集客を強化しつつ、関西圏との連携強化により瀬戸内エリアを周遊する欧米からの観光客を獲得し、島内での宿泊による滞在時間の延長を促進する。



インバウンドのターゲット設定

■小豆島ふるさと村の需要圏域



※空港：八尾空港は、定期便就航なし
徳島阿波おどり空港の札幌便は、8/1～8/31の火・木・土のみ運航

小豆島ふるさと村の需要圏域図

02. 利用者層の設定

■小豆島ふるさと村の利用者層の見直し

小豆島を訪れる観光客の傾向や導入機能を踏まえ、小豆島ふるさと村全体及び各ゾーンの主な利用者層を設定した。

現状

小豆島全体として、現状は若者やファミリー層の観光客による来島が多いが、利用者の滞在時間の延長や観光消費額の向上に向けて、各施設のターゲット層を明確化する必要がある。

現在、日常的に利用されている地域の方々による利用等についても考慮する必要がある。

現状の施設は、様々な需要に対応して都度整備されてきたため、小豆島ふるさと村全体のターゲットや近接する施設間の連携を踏まえた主な利用者層の見直しを行う必要がある。

方針

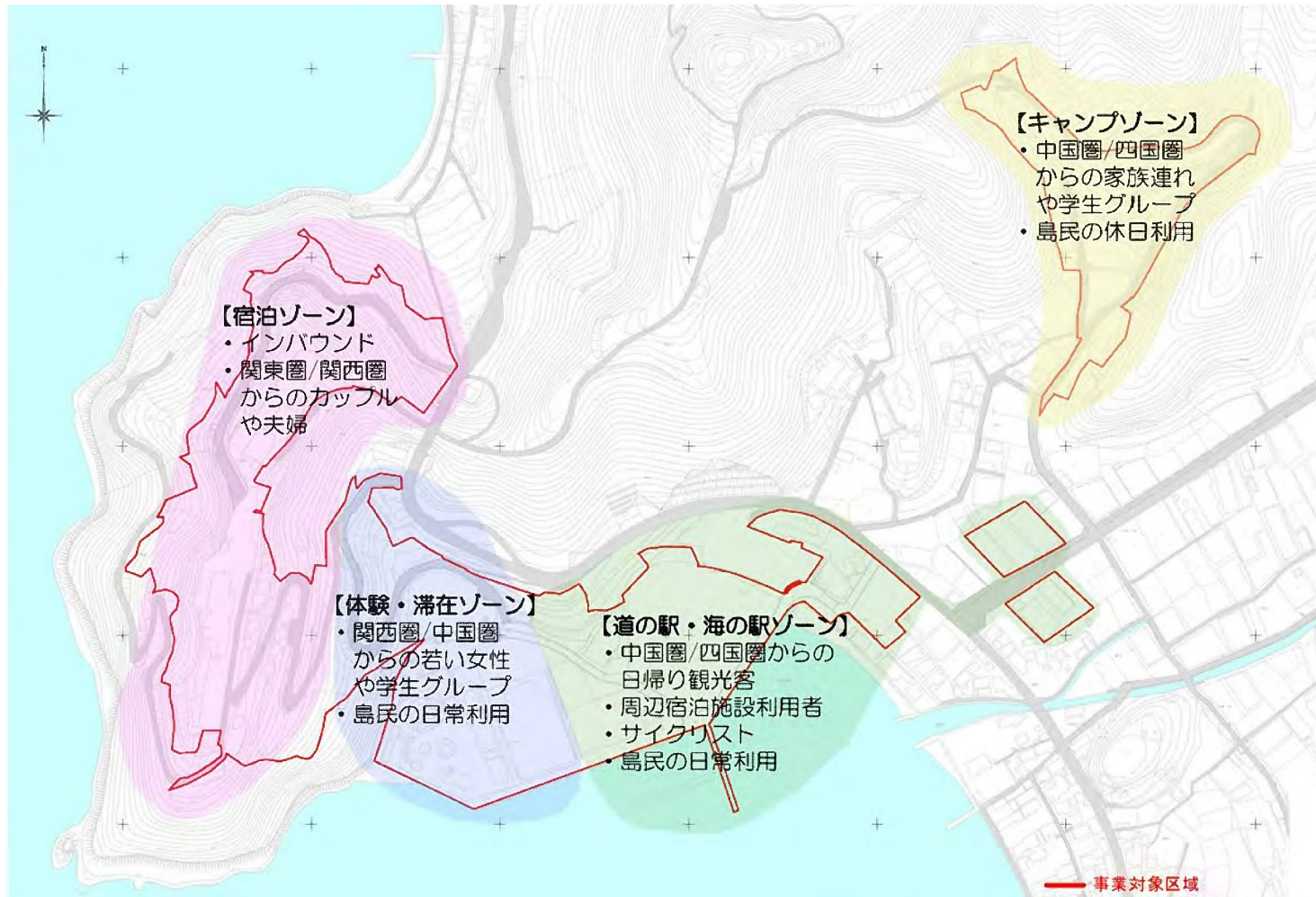
宿泊利用率や観光消費額が高いインバウンドや若い女性及びミドル世代の利用を促進することにより、施設利用の単価向上を図る。

島民の日常利用の利便性も考慮し、小豆島ふるさと村が観光客と周辺地域の交流の場としての役割を発揮する。

事業対象区域が広大で高低差も大きいことから、想定される施設形態と、設定した需要圏域を踏まえ、各ゾーンの主な利用者層を設定することで、効果的かつ効率的な整備・運営を実現する。

■ 整備後の主な利用者層の設定

宿泊利用率や観光消費額が高いインバウンドや若い女性及びミドル世代の利用を促進する。



各ゾーンにおける主な利用者層の設定



宿泊ゾーン

アフターコロナで成長が見込まれるインバウンドや、現状も宿泊利用が多い関東圏や関西圏からのカップルや夫婦をターゲットに設定し、小豆島ふるさと村及び小豆島の観光消費額の向上を図るゾーン



体験・滞在ゾーン

海に面した広い屋外空間を活かし、関西圏や中国圏からの若い女性や学生のグループを対象とした様々なアクティビティを提供するとともに、島民の日常的な活動の場(サードプレイス)となるゾーン



道の駅・海の駅ゾーン

中国圏や四国圏など近隣からの日帰り観光客や、マメイチなどを目的に来島するサイクリスト、周辺の観光施設利用者による立ち寄り率の向上を図りつつ、これまでどおり島民が日常的に利用し、観光客と島民の交流の場となるゾーン



キャンプゾーン

中国圏や四国圏から週末に訪れる家族連れや学生グループを対象としつつ、道の駅・海の駅との連携強化や、島民も参加可能な夜間イベント等を実施できるゾーン

03. 利用者数の設定

小豆島ふるさと村は、多様な機能を持つ施設が集合した複合型レジャー施設であること、本事業により全面的なリニューアルを行うことを踏まえ、各ゾーンの主な集客施設の「目標利用者数」と、小豆島ふるさと村内の芝生広場を身近な公園として利用する「近隣住民の利用」を合わせた「小豆島ふるさと村全体の目標利用者数」を約31.8万人とする。

エリア	宿泊施設エリア	体育施設エリア	道の駅・海の駅エリア	キャンプ場エリア
利用状況 ※1	利用者数（延べ） ：27,000人／年※ 主な利用者層 ：団体旅行／合宿	利用者数（延べ） ：36,000人／年※1 主な利用者層 ：島民／合宿	利用者数（延べ） ：121,000人／年※ 主な利用者層 ：日帰り観光客／島民	利用者数（延べ） ：6,000人／年※ 主な利用者層 ：家族連れ
				合計：190,000人／年

※1：現状の利用者数は、2019年（令和元年）の施設利用者数より引用

ゾーン	宿泊ゾーン	体験・滞在ゾーン	道の駅・海の駅ゾーン	キャンプゾーン
主施設	・宿泊施設	・飲食施設 ・BBQ広場	・道の駅 ・海の駅	・キャンプ施設
利用想定 ※2	【主な利用者層】 ・インバウンド ・関東圏／関西圏からのカップルや夫婦	【主な利用者層】 ・関西圏／中国圏からの若い女性や学生グループ ・島民の日常利用	【主な利用者層】 ・中国圏／四国圏からの日帰り観光客 ・周辺宿泊施設利用者 ・サイクリスト ・島民の日常利用	【主な利用者層】 ・中国圏／四国圏からの家族連れや学生グループ ・島民の休日利用
	28,000人／年	60,000人／年	134,000人／年	6,000人／年
				小豆島ふるさと村内の芝生広場を身近な公園の空間として利用する近隣住民：90,000人／年
				合計：318,000人／年

※2：目標利用者数、近隣住民の利用の数値は、推計結果をもとに百人以下を四捨五入